

体育大会の感想①（生徒の日記などから 3年生）

中学校最後の体育大会は、点差がほとんどない接戦で、最後の最後まで、どちらが勝つか分かりませんでした。

一番心に残ったのは、大縄跳びと学年競技で青団に勝てたことです。大縄跳びでは、男子・女子ともに70回を超えたことがとてもうれしかったです。練習の成果が発揮できました。学年競技の三人四脚では、前半、青団に差をつられたまま女子にバトンが渡りましたが、最後、全員で走るとき、こけることなく走りきり、青団に逆転勝ちしました。そのとき、驚きと喜びでいっぱいでした。これも練習の成果だと思います。

練習で勝っていた綱引きで負けてしまったことが、最も悔しい場面でした。団対抗リレーでも負けてしまったとき、接戦だったため「負けたのか・・・」と一瞬、頭をよぎりました。成績発表をする前、紙を見るのがとても怖くて、悔しくて、泣きそうになりました。結果、青団に負けてしまいました。でも、みんな必死に競技に取り組んで、応援して、だからこそ涙が出たんだと思います。これで、3年1組の団結が深まりました。これからの学校生活このクラスで楽しい思い出を作りたいです。

今日は、私たち3年生にとって最後の体育大会でした。

私は体育大会で目標にしていることが2つありました。それは、「ケガをしない」「勝っても負けても笑顔でいる」ということです。

なぜこの目標を立てたかという、ケガをするとまわりに迷惑がかかるからです。それと、もちろん勝って終わるとき笑顔でいたらうれしさも倍増するし、負けたときもみんなが努力したことになり変わりなく良い思い出なので笑顔でいたいと思ったからです。

でも、ものすごく悔しかったのは絵看板も青団に負けてしまったことです。青団もすごかったけど、それに負けず赤団もものすごいものだったと思います。良い思い出でした。

私は体育大会という、中学校生活での大きな行事を終えて感じたことがあります。

それは、練習の時などにみんなの気持ちがバラバラになるようなことがありました。そんなときに、ただ一人で悩むのではなく、みんなで話し合ってもっと良くするためにどうすればいいのかを考えたことで、本番にみんなが気持ちを一つにして頑張ることができたということです。

本番当日、前半の競技で負けが続いてあきらめかけるようなことがありましたが、励まし合ったりして後からの競技も気持ちを一つにすることで頑張ることができたということです。

あと、6人で時間をかけて作った絵看板も一位をとれてとてもうれしいです。